ブログも見てね！

西幼だより

第８号　令和６年１１月２８日
新潟市立西幼稚園

【教育目標】
しなやかに
たくましく

（西幼稚園 HP）

遊びの世界の向こう側に

園長　渡邊 舞

年少さんたちは最近、お医者さんの遊びが大好きです。点滴の準備をし、患者さんのぬいぐるみを寝かせたり、患者さんの情報を空き箱で作ったパソコンに入力をするつもりになったりして遊んでいます。お医者さんになっているうちに、そこは、保育室が診察室に。その世界に浸って一人一人がお医者さんや患者さんになりきり、**自分なりの**楽しさを感じて遊んでいます。

年中さんと年長さんは、いろいろなものになって、自分たちでお話を作りながら遊んでいます。昨日までお姫様になっていたかと思うと、「今日はハチになるの」となりたい役がその日によって変わり、ブルーシートを一枚広げたそこは、たちまち氷の世界に。その世界の役になりきって会話を始めます。年少さんと同じようにその世界に浸り、**２人で一緒**に楽しさを感じながら楽しんでいます。

こうした子どもたちの遊びは、毎日新しい楽しさが加わり、遊びが深まっていきます。イメージしていることがより本物らしくなるように思いを巡らせたり、遊びに必要なものを作ったりして遊びの世界に浸ってじっくりと遊び込んでいます。お医者さんに必要な道具を教師が用意し「はい、今日はお医者さんになって遊ぶよ」と教師が主導し、果たして子どもたちはその世界に浸ることができるでしょうか。子どもたちが自ら興味をもった（ワクワクした）ことに心を動かしてこそ、その世界に浸って遊ぶ姿につながります。生活体験や知っている情報を手掛かりに、イメージを膨らませ、思考を巡らせながら遊び込む中で「もっとこうしたい」という思いがどんどん膨らみます。このとき、教師は、子どもたちが何に関心をもっているのか、どんな世界をイメージしているのかを考え、思いを引き出し、時にはアイディアを出しながらさらに遊びが深まるようにします。そして、子どもたちの「もっとこうしたい」という思いを明日につなげ、さらに経験が積み重なっていくよう支えます。

年中さんと年長さんが今作っているお話のベースは子どもたちが日々楽しんでいる遊びの世界そのものです。唯一無二のこのお話は 12 月の『表現遊びの日』で披露します。自分たちの遊びの世界を今度はお家の方に見てもらうということを意識して表現する必要があります。よりそのものらしく見えるにはどう動けばいいか、どんなふうにお話するとそのときの様子が伝わるかなど、子どもたちが自分たちで考え、楽しく表現できるよう、２人の世界観を大切にしながら、私たちは黒子になって支えていきます。いつも一緒に遊んでいる大切な仲間の年少さんたちも、２人のお話の世界の楽しさに誘われ、劇に入って遊んでいます。当日はどこかの場面で、その子なりの楽しさを感じながら登場する予定です。ぜひ『表現遊びの日』には、子どもたちが思い描く楽しいお話の世界にお家の方にも浸っていただきたいと思います。既成の劇では決して感じられない、子どもたちが創る楽しい世界の向こう側に、子どもたちがこれまで経験してきたことを、きっと感じていただけるものと思います。